

オーディオ実験室収載

EQ カーブ対応トーンコントロールの調整(15)(HP 収載) －Marantz7 による調整(4)－

1. 始めに

前報(14)に引き続き、Marantz7 によるトーンコントロールの調整の効果イコライザーカーブ毎に詳細を詰めていきます。

2. トーンコントロールの調整方法

次の再生経路を設定します。

再生経路 1

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (EQ 可変) →Brooklyn DAC+

*ZANDEN Model 120 の EQ カーブの最適条件で再生する。

再生経路 2

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (RIAA 固定) →Marantz7 (ライン入力)

→Brooklyn DAC+

*ZANDEN Model 120 は RIAA に固定し、Marantz7 のトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

再生経路 3

Thorens TD124→My Sonic STAGE 1030→Marantz7 (フォノ入力) →
Brooklyn DAC+

*Marantz7 は RIAA でトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

音源は EQ カーブの異なるアナログ盤を準備します。今回は EMI カーブと思われる次の盤を選択します。

EMI SLC1331

ヘンデル メサイア

クレンペラー指揮フィルハーモニア

EMI EAC 55004

マーラー 交響曲 1番

ジュリーニ指揮シカゴ交響楽団

3. トーンコントロールの調整結果

再生経路 1 では、ヘンデルのメサイアは、EMI、R、第 4 時定数 Low で再生し、合唱の分離と協和、弦とソリストの声の質感や金管の輝き、および通奏低音の明瞭さなど

を確認することができます。

マーラーの交響曲1番は、EMI、R、第4時定数Lowで再生し、ローレベルの質感から盛り上がりの金管の咆哮や打楽器の一撃などを味わうことができます。

再生経路2では、ヘンデルのメサイアは、RIAA、N、第4時定数Highで再生し、Marantz7のトーンコントロールのTrebleを1ノッチ、Bassを1ノッチ上げ、Brooklyn DAC+で位相反転することにより、合唱の分離も弦の爽やかさもあり、ソリストの声の質感も十分です。こういった対応をとらないと平凡な印象で、音の焦点が定まりません。

マーラーの交響曲1番は、RIAA、N、第4時定数Highで再生し、Marantz7のトーンコントロールのTrebleを1ノッチ、Bassを1ノッチ上げ、Brooklyn DAC+で位相反転することにより、音の切れがよくなり、定位もしっかりと押出が向上してきます。こういった対応をとらないと音の焦点が定まりません。

再生経路3では、ヘンデルのメサイアは、RIAAで再生し、Marantz7のトーンコントロールを再生経路2と同様にし、Brooklyn DAC+で位相反転することにより、ソリストの声に張りがでて、合唱やオーケストラの押出が強くなります。

マーラーの交響曲1番は、RIAAで再生し、Marantz7のトーンコントロールを再生経路2と同様にし、Brooklyn DAC+で位相反転することにより、再生経路2より厚みがまし、終章の盛り上がりの迫力が向上します。

4.まとめ

イコライザーカーブがRIAAでない盤をRIAAで再生した場合の違和感をMarantz7のトーンコントロールを調整することで、一定程度カバーすることができました。

以上